

報 告

近畿病院図書室協議会第9回交流会 in 神戸

田中 浩章

日時：2015年6月20日(土) 13:00~17:00

場所：神戸国際会館 901 貸会議室

参加人数：8名

神戸の三宮にある国際会館の貸会議室が、交流会の会場でした。机とイスがたくさんある部屋です。参加者8名が自己紹介をして、交流会が始まりました。

まず話題にのぼったのは、かなり薄くて自立させられない冊子体の雑誌の配架方法についてです。市販のケースは使いづらいため、ダンボール箱を加工して収納配架するやり方の紹介がありました。ダンボール箱アートは、色々な図書室で行われているのでは？

洋雑誌・和雑誌の区別の付け方の話もありました。「出版地でとるべきか？それとも、言語で分けるべきか？」実は、その図書室ごとに、洋・和の定義がまちまちだったりするのです。近畿病院図書室協議会で実施している統計のアンケート記入にもかかわってくる話でした。

途中で学会名が変わったり、英語表記になったり、また日本語に戻ったりした雑誌があるそうです。そんな雑誌を、内容的には継続しているので前の表記の誌名の続きで配架していくという図書室があります。それとは異なり、誌名が変わった訳だから、別の場所に配架している図書室もあり、その場合は案内表示が必要です。

アプリを図書費で購入されたことはありますか？その質問に対してはみな「ありません」という答え。アプリは先生方みんなが使える状態かという疑問だし、個人の研究費、もしくは部署

どめの方が良さげだという話に落ち着きました。

文献の相互貸借でFAX送信依頼が来た際の対応についての話も出ました。集まった参加者からは、やはりそれには抵抗があるという意見が出ました。

毎年どんどん高くなる医学関連の雑誌と電子サービスと電子ジャーナル。その中でも、ある会社は本社の方針がころころ変わるので、どうやら日本側の代理店になる業者も困惑気味らしい、という話を聴きました。

利用者が図書室に足を運んでもらえるようなアイデアについて。オリエンテーションや図書日より、案内の充実、良い資料で人を誘い出す、などの意見が出ました。しかし、どれも必ず効果があるところまではいかないと思われます。永遠の課題です。

雑誌や本の付録の取り扱いは、悩みどころです。付録が小冊子やポスター、看護系の雑誌に多いカードなどは、管理に困ります。雑誌によっては、USBフラッシュメモリが付録でついてきたという報告もありました。付録冊子の他、CDやDVDをカウンター側で預かり、別置き管理というのが一つのやり方です。

主にこれまでこの報告に記載したような話をしていたのですが、気が付けばあっという間に4時間が経過していました。

今回この交流会に参加したことで、他の参加者の方の話も聴けましたし、病院図書館業務の奥深さを考える良い機会になりました。私一人では気が付かなかったような問題もあるし、まだまだ工夫の余地がありそうだなと思いました。